

二宮公羽夜話

第5回 R.5 5/4 (水) 資料

第二篇 天道と人道

世目、その子 四六、五八は、天道と人道との
違いつつ、具純例を弄し、
おやめませう。いっくらと味のあつりしう。

四六、p.82。施転とやまのか、天理の常。

。人道は天理自然の道ではあら

四七、p.83。人道は水車、中庸と尊ぶ

作爲の道 (51)

四八、p.84。人道は人造のもの

欲を押し、情を制す。

四九、p.85。天命の中に人事を及す。

人事の勤惰によつて天命も伸縮する。

五〇、p.86。天道は自然に行われる道

人道は人のまゝの道

五一、p.87。高道は天理自然の道

人道は、作爲の道

五二、p.88。人道は「克己復禮」 (福沢諭淵等十三)

「顔淵問仁。子曰、克己復禮為仁。一日克己
復禮、天下歸仁焉。為仁由己。而
由人乎哉。」

五三、
A89.

老荘と仙教の考え
「その本原天に出ず」
朱子の中庸章句第一章

子思の言

右第一章。子思述^{ベテ}所^{フル}伝^テ之意^ヲ以^テ立^ツ言^ヲ。首^{ニハ}明^{カニシ}道^ノ之本^ヲ原^ヲ出^テ於^テ天^ニ、而^レ不^レ可^レ易^フ、其^ノ実^ニ体^ハ備^{ハリ}於^レ己^ニ、而^レ不^レ可^レ離^ル、次^{ニハ}言^ニ存^ニ養^ニ省^ニ察^ニ之^要、終^{ニハ}言^ニ聖^ニ神^ニ功^ニ化^ニ之^極。蓋^シ欲^ス学^者於^レ此^ニ反^ニ求^シ諸^ヲ身^ニ、而^レ自^ニ得^シ之^ヲ、以^テ去^リ夫^ノ外^ノ誘^ノ之^私、而^レ充^中其^ノ本^ニ然^ル之^善。楊^氏所^謂一^篇之^体要^{トハ}是^也。其^ノ下^ノ十^章蓋^シ子^思引^イ夫^子之^言、以^テ終^ニ此^ノ章^ノ之^義。

訓読 右第一章。子思伝うる所の意を述べて以て言を立つ。首には道の本原天より出でて易可からず、その実体己に備わりて離る可からざるを明らかにし、次には存養省察の要を言い、終には聖神功化の極を言う。蓋し学者此に於て諸を身に反求して之を自得し、以て夫の外誘の私を去りて、その本然の善を充てんことを欲す。楊氏の所謂一篇の体要とは是なり。その下の十章は蓋し子思、夫子の言を引いて以て此の章の義を終る。

通釈 右は第一章である。子思が堯舜以来相伝えた教えの趣意を述べて言を立てたのである。首には道の大本・根原は天から出たもので、一定不易のものであり、そのまことの正体は人々自身に完備していて決して離れることの出来ないことを明白にし、次には君子は常に敬虔の心を存して、未だ見聞せずとも戒慎恐懼して天命の生まれつきを存養し、意念が発動する際、隠微の間を省察して、よく独りを慎むの要旨を言い、終わりに聖神の徳ある人は、よく中和を致して、其の功業化育の極致として、其の結果、天地も安らかに位し、万物も正しく生を遂げるに至ることを言っている。

思うに学者が此の点に於て之を自己の身に反省し求めて、天下の大本は人々に具わっている天命の性であり、天下の達道は人々の天性に率うことであり、中和は人々が本来具え有っているものであることを自覚して、真に之を自得し、心に深くのみこんで実践し、以て外界の誘惑に兎角迷い勝ちである私欲を去って、本来固有の善を充実せんことを望むのである。

楊龜山氏が云っているように、此の章は中庸全体の意義を総べてくくって、中庸の大体要旨を述べたものである。

此の章以下の章は思うに子思が孔子の言を引用して此の第一章の意義を残りなく述べたものである。

語釈

○立言 後世の教えとなる立派な言を残すこと。言はことば。

○聖神功化之極 この句は「中和を致して天地位し、万物育す」の三句を指す。

○道之本原出於天一 本原は大本、根源。この語は漢の大儒董仲舒が言ったもので、ここでは中庸の初めの句の性・道・教の三句を指している。

○反求諸身 大本は天命の性であり、達道は性に率うの道であり、人々自身に本来具わっている。それ故、これを反省して求めよというのである。

○実体備於口而不吐可離 この句は、「道は須臾も離る可からざるなり。離る可きは道に非ざるなり」の二句を指している。

○去夫外誘之私 独りを慎しめて私欲を去ること。
○楊氏 程子の門人中の四先生として呂大防・謝良佐・游定夫・楊時の四人がいるが、その一人の楊時のこと。楊龜山先生といわれた。

○存養省察 存養は「その睹ざる所を戒慎し、その聞かざる所を恐懼す」の二句を指し、省察は「独りを慎む」を指す。

○体要 大体の要旨。

89 道德經第一章

體道第一

道の道とす可きは常道に非ず。名無し、天地の始には。名有れ、萬物の母にこそ。故に常無は以て其の妙を觀んと欲し、常有は以て其の微を觀んと欲す。此の兩者同じきより出でて名を異にす。同じきもの之を玄と謂ふ。玄の又玄、衆妙の門。

五四、p.90。流業と人道

無心の流業に使役されず、仁と智と二つを心かり、あか徳を合する。

五五、p.91。百事、決定と流業の肝要である

五六、p.92。人道の四那人にきりなすように心掛ける

五七、p.92。天道と人道と異なる道理を悟ること

人道は人の立場で作るものがある

五八、p.94。子曰内省不疚。夫何憂何懼。論語顔淵第十

Detail of a Kyoto building



Chapter 4

JAPAN'S STORY THROUGH THE AGES

"Land of the Rising Sun"

The word "Japan" came from the Chinese word which means "the source of the sun." The Chinese, by using the word, were saying the island country of Japan was east of China. Because of this, Japan is often called the "Land of the Rising Sun." When the Japanese say their country's name, it sounds like "Ni-han" or "Nippon." This explains why Americans sometimes call these people "Nipponese."

"Land of the Gods"

Japanese children learn in school that a mighty god named Izanagi stood with his wife Izanami on the "Floating Bridge of Heaven." He looked down at the sea below. All of a sudden he lowered his jeweled spear into the dark waters. As he withdrew his weapon, some salt drops fell from the tip of the spear. As they fell, they hardened into a group of islands. And so, as the legend goes, Japan was born.

資料
の
一
(原寸大)

The story also says that Izanagi brought to life many other gods. One was a sun goddess who sent her grandchild Ningi down to earth to rule the new land. He came to the island of Kyushu carrying three things: a huge jewel, a sacred sword, and a bronze mirror. All were given to him by his grandmother. These three objects still are the symbols of the emperor's rule in Japan today. Ningi had a grandson, Jimmu, who became the first person to rule Japan. This, we are told, was on February 11, 660 B.C.

For hundreds of years the Japanese have pointed to this legend. They used it to prove that they, their ruler, and their land were really chosen by the gods. The present emperor, Hirohito, is said to be the 124th ruler in direct line from Jimmu. This makes his dynasty the oldest in the world.

Izanagi at

*Courtesy, Museum
Collection.*



*and Izanami, standing in heaven,
watch the creation of Japan.*

1 of Fine Arts, Boston. Bigelow

【写真解説】 イザナギ、イザナミが天空に立って、日本創造を見守っている。この絵はボストン美術館にあるビゲロウ・コレクションの好意によって掲載した。(表紙参照)

「ジャパン」という国名は、太陽の出る所という意味の、「漢語」から来ている。この国名を使うことによつて、シナ人は、日本列島がシナの東に位置することを言つたものである。このために、日本はしばしば「日出づる國」と呼称されてきた。それに日本人は、自分たちの国名を「ニホン」または「ニッポン」と発音する。そのためアメリカ人は、時に日本人のことを「ニッポニーズ (Nippo-ness)」と呼ぶことがある。(資料一)

私はこの部分をコピーして、学生に翻訳させました。すると、「日本という名前の起りはこちらから来ているんですか。初めて知りました」と、お札を言われました。戦後日本では、自国の國名の由来を教えられなかったので、アメリカの教科書で教えられた、という訳でした。

六百字に凝集された建國のいわれ

ア

メリカ教科書は続いて小見出しを「神々の國」とつけて、日本の神話に移るのですが、右側に、伊邪那岐・伊邪那美二柱の神の、国生み神話の墨絵が掲げられています。森本氏から教えられた通りでした。

挿絵の解説には、——「イザナギとイザナミが天空に立って、日本創造を見つめている。——ボストン美術館、ビゲロウ・コレクションの好意による」と書かれています。恐らく明治の中ごろ、この絵の真価を認めたビゲロウが日本から持ち帰り、ボストン美術館に収蔵したものと思われる。(詳しいいきさつについては85頁参照。)それは本文はどう書いているでしょうか。「神々の國」という見出しで始まります。

神々の國 Land of the Gods 原書取頁

日本の子供たちは、学校で次のように学んでいる。

イザナギという権威ある神が、その妻イザナミと共に「天の浮橋」(Floating Bridge of Heaven)の上に立った。イザナギは、眼下に横たわる海面を見降した。やがて彼は暗い海の中に、寶石を散りばめた槍をおろした。その槍をひき戻すと、槍の先から汐のしずくが落ちた。しずくが落ちると、次々に固まって、島となった。このようにして日本誕生の伝説が生まれた。

またこの伝説によると、イザナギは多くの神々を生んだ。その中の一人に太陽の女神があった。女神は孫のニギノミコトを地上に降りたさせ、新しい国土を

統治することを命じた。ニギノミコトは大きな勾玉と、神聖な剣と、青銅の鏡の三つを持って、九州に來た。これらすべて、彼の祖母から贈られたものであった。これら三つの品物は、今日もおお、天皇の地位の象徴となっている。ニギノミコトにはジンムという孫があつて、この孫が日本の初代の統治者となった。それは、キリスト紀元前六六〇年の二月十一日のことであつた。

何百年もの間、日本人はこの神話を語りついできた。この神話は、日本人もその統治者も、国土も、神々の御心によつて作られたということの証明に使われた。現在のヒロヒト天皇は、ジンム天皇の直系 (direct line) で、第二百二十四代に当るといわれる。かくして日本の王朝は、世界で最も古い王朝 (dynasty) ということになる。(資料一)

日本語にして、わずか六百字程度の短い文章です。この短い中に、伊邪那岐・伊邪那美命の国生み神話から、太陽の女神・天照大神、三種の神器、瓊瓊杵尊の天孫降臨、神武紀元(二月十一日の意義)、神武天皇から百二十四代にわたる万世一系、世界で最も古い王朝等、戦後の日本の教科書で触れていない事柄ばかり、ギッシリ詰まっています。